



# 秋 剣 連

発行

秋田県剣道連盟

〒010-0914

秋田市保戸野千代田町 14-12

SAKAEビル 2F-B

TEL 018-883-0680

FAX 018-883-0663

E-mail a-kendo@abelia.ocn.ne.jp

http://akitakenren.com/

## 秋剣連の現状を見据えて

秋田県剣道連盟 会長 目黒 大作



昨年四月、二十八年年度役員会において、鑑会長  
の辞意に伴い、後  
任として推挙され

就任、早十ヶ月が経過致しました。これまでの事業については、皆様方のご指導、ご協力で順調に終えることができ、ここに新しい年を迎えることができました。

しかし、その間に予期せぬ悲しい事態の連続に、困惑の態をいたした所でありました。鑑前会長におかれましては、一時体調を崩されたものの完全復活、春の褒章で旭日雙光章を受章、七月皆様で祝意の会を催した所でありました。それから四カ月、突発的な病にてご逝去、誰もが耳を疑った所でありました。

その死を悼む間もなく、葬儀当日、副会長佐々木茂先生が、緊急入院、一月二日、帰えらぬ人と相成りました。あまりにも急すぎた逝去に、哀惜の念にまだまだ堪えきれないしだいでありませぬ。

秋剣連の重責を担っていたら、お二人を一度に失うことへの損失の大きさに、途方に暮れながらも、この事実を深く受け止め、お二人の思いを今後の連

盟の発展にいかしていくべく、剣友一丸となつて努力する所存であります。

さて、就任以来、連盟事業の現状を把握すべく、すべての事業へ可能な限り、出席いたしました。

本県の少子化率の高さは言うに及ばず、それは、剣道人口減少と一致するものであり、まさに危機的な状況であります。

各郡市連盟や組織団体が、このような現実を深く受け止め、その改善に向け真摯に取り組んでいる姿に接したとき、改めて深く敬意を表するものであります。

今、剣道を取りまく社会の流れは大きく変革してきております。我々は、この変化の時代を先取りする為にも、組織の改編、充実させることが急務と思われませぬ。それは、現状に対するスピーディーな対応、かつ組織内連携がスムーズにできる体制作りにかかっているからと考えるからであります。

一方大会等「事業のもち方」や「旅費」に関する件について、財務の状況を踏まえながら、事業の意義や持ち方なども含め検討、同時に現在審判員には、ボランティアに過剰にたよるなどの依存状態にあります。旅費の実費支給等の配慮など、改善に向けた検討の必要性を感じております。

本年九月、ねんりんピックが由利本荘市で開催されます。連盟を挙げて成功させたいと思っておりますので宜しくお願ひします。

本県の高齢層（シニア層）は、人材的にも技量的にも大変充実、その活動は、秋剣連の活性化の起爆剤になるものと考えませぬ。是非この機会に、現状の大会の中に、種別として、シニアの部、団体、個人戦の開催を実現できればと考えるものであります。

また、本年は東北剣道連盟の当番県となり、各種大会を主催することになります。是非参加者が、十分に力量が発揮できるような大会運営に努めると共に、本県選手活躍を強く期待するものであります。

思いつくまま例記しましたが、いずれにしても将来の明るい展望を目指して、早急に改善をはかつて行きたいものであります。剣道は、実践することが大切であることは申すまでもありません。しかし、各自による実践の方法は違つて当然であります。

このことを踏まえながら、尚武秋田と言われた当時の先輩の思いや、活動をもう一度思いおこし、「不易流行」を再認識することが秋剣連の新たな出発の起点となるものと考えられるものであります。

たがい「切磋琢磨」する心身錬磨の剣道集団で在りたいと願うものであります。会員の皆様の一層のご協力と、力添えをお願い致します。

## 「恩師の思い出」

小松 幸円



父の勤務の関係

で、石沢小学校から  
本荘鶴舞西小学校に転校したのは私が小学校四年生の夏、  
昭和三十三年十歳の時でありました。

その時、本荘に住むということになり、父から「本荘に行った時はなにをやりたい？」と問われ、父が警察官で柔道をやっていたこともあり、また父の稽古姿もこれまで何度となく見ており、白の稽古着、黒帯姿に心ひそかに憧れていたので「柔道やりたい！」と即答したところ、父曰く「お前みたいな体の小さいヤセが柔道やってもケガが多く、骨折するのは目に見えている。お前は剣道をやれ！」その一言で本荘に居を移した後は即、本荘少年剣友会に入会したと言うよりも入会させられたと言った方が当たっているのかもしれない。

本荘少年剣友会の稽古道場は、本荘警察署の道場と今はなくなりましたが鶴舞西小学校小体育館でありました。如何せん、好きで自分から進んで剣道を選んだ訳ではないので、入会当初は稽古に身が入らず、稽古時間になると市内の本屋さんに行き

漫画を立ち読みしては時間をつぶし、稽古が終わった頃に自宅に帰る・・・というところもありました。この事は直ぐ両親の耳に入り、大説教を頂いたことを今でも時々思い出しては一人懐かしがっている私であります。

当時の少年剣友会の役員の方々は、会長吉田謙、指導陣は中山孝輔、田口捨五郎、藤井純一、岩谷光三・・・の各先生方、特に中心的な存在で指導されておられたのは中山孝輔先生でありました。先生の指導はやさしく丁寧、今思えば理論明るく、私も小学生にも分かりやすく説明し、実践に入っていくというものでありました。基本、基本の繰り返し、私もが姿勢悪し、体の崩れた剣道の時は厳しく指摘指導され、私などは相手の小手を打った時の姿勢が悪く、頭を下げ、下を向く癖があり、随分と怒られておりました。

先生の剣歴等々は本荘市由利郡剣道連盟「郷土之剣道史」Ⅱに剣歴と短評のところで載っておられ、中山孝輔氏「氏は本警、郡警、少年剣友会等の指導で、連日大奮闘を続けられた。氏は秋田署から警視庁、そして台湾の剣道教師に栄転され、終戦までは台湾全土に“剣道師範中山教士”の名声高く、郷土の為に万丈の気を吐かれた。永年剣道を修練された氏は、人格識見共に優れて他郡市、他県にも誇りうる郷土の剣豪であり、信望も厚く、教え子の敬慕を一身に

集め活躍された・・・」抜粋

先生方のご指導を受け剣道の楽しさ、おもしろさが少しずつ分かってきた五・六年生、剣道の稽古も熱が入ってきた頃でした。小学校六年生の時（昭和三十五年）、秋田高校体育館で行われた秋田県剣道大会（第六回少年大会）準決勝で附小A、決勝で附小Bを破り、全県優勝した時の中山先生の破顔一笑、少々肌黒い顔に赤みがさした笑い顔、今も懐かしく思い浮かべております。

更に先生の思い出の一筆として・・・第五回全国少年錬成大会（水戸大会）に出場した時であります。先生は監督でありましたが都合で出席できず、私も選手が本荘を出発する時に一通の手紙を先生から受け取りました。その中身は選手一人一人の剣癖、そして個々への激励、の内容でありました。

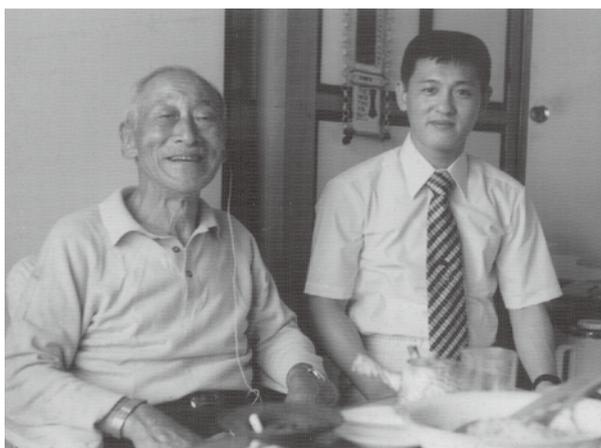
翌日の試合は準決勝にて水戸東武館に破れましたが、中山先生の私どもの試合に対する思いを十分に伝わった試合であったと五十数年経った今でも先生に感謝の気持ちでいっぱいです。

また、先生からはよく釣りに誘われ、その都度聞かされたこと・・・「幸円君、釣りは人間と魚との一本勝負だよ、アタリがきて早く竿を上げては針は魚に掛からず、遅く上げてはエサを取られて針に掛からず、魚の勝ちで人間の負けじゃ」と。剣道も（打

ち頃）があるのだと言う事を教えてくれたものと思います。

先生は後に埼玉県春日部に居を移されておりましたが、昭和五十年に私は家内と結婚の報告をと伺ったところ大変お喜びになり例の破顔一笑、これが先生の最後の姿でありました。因みに家内も先生の剣道の教え子であります。その影響か今も私の剣道に対する家内の所見は中山流の厳しい内容ばかりであります。

私自身、神奈川県から秋田に帰り丸五年、機会あるごとに諸先生、また剣道の仲間達に稽古をお願いしておりますがすべて剣道の師と思ひ、六十八歳、求める気持ちはいつまでも忘れず、精進していかなければと日々心にて思っております。



# ねんりんピック長崎大会 に出場して

杉山 忠幸

このたび、第二十九回全国健康福祉祭ながさき大会（十月十五日～十七日・開催地：長崎県五島市）に秋田県選手団として出場する機会を与えていただきました。選手団（伊藤惣作・高橋正彦・杉山忠幸・菊地弘志・今功夫の五名）は十四日に秋田を出発し、総合開会式免除で、一路、五島市の福江島へと向かいました。

十五日は福江文化会館で剣道・俳句の合同開始式が行われました。その席上の特別表彰では、これまでの剣道での活躍が讃えられ、今功夫選手（九十一歳）が最高齢者賞。菊地弘志選手（八十歳）が高齢者賞受賞という栄えある受賞の喜びを秋田県選手団一同で分かち合うことができました。ステージに登壇した両先生の立ち姿は実に堂々と立派で、会場からは驚嘆の声と大きな拍手がありました。

明けて十六日、剣道会場の五島市

民体育館での開始式後、予選リーグが始まりました。本県の初戦の対戦相手は奈良県。先鋒の伊藤は相手の面打ちに素速く反応。面応じ面を決め一本勝ち。次峰の高橋は引き分け。中堅の私は面を二本決め、二本勝ち。副将の菊地は引き分け。大将の今は引き分けという結果で、二対〇で奈良県チームに勝利しました。

次の対戦相手は長崎県Cチーム。地元五島市の剣士だけで編成されたチームでした。試合は先鋒の伊藤、次峰の高橋が時間一杯善戦するも共に敗れ、中堅の私が試合の流れを変えようと攻めましたが、有効打突を



奪えず引き分け。副将の菊地は小手を先取しましたが、相手に技を決められ惜敗。大将の今は相手に隙を見せず、最後まで果敢に戦うも引き分け。試合終了後、大会最年長の今選手に対して、会場からは一段と大きな拍手が鳴り響きました。

県チームの試合結果は長崎県Cチームに〇対三で敗れ、一勝一敗となり、残念ながら決勝トーナメント進出はなりませんでした。

今回の大会では、秋剣連の伊藤忠善先生、山崎義裕先生、両先生から会場での応援と温かい激励のお言葉を

をいただき、本当にありがとうございました。また、高齢剣友会の皆様の大会出場へのご支援・ご協力にも心から感謝いたします。



## ねんりんピック長崎 視察報告

事務局長 山崎 義裕

ねんりんピック剣道交流大会、来年度二〇一七年本県由利本荘市での開催を控え、本年度開催の長崎県五島市へ視察に行ってみました。長崎！だけでも、遠い、という印象ですが、さらに海を渡って五島列島、うーん、遠いなあ、と思わず出るため息。

とはいえ、歩いて行くわけではありませんので、時間は多少かかりま

したが、気がつくともう遠方の地へ。飛行機で延べ三時間ほど飛んで参りましたので、降り立つ場所は異国の趣かという先入観もありましたが、高台にあった空港から望む海の眺めに、近くに島々が連なる島嶼部らしさを感じたものの、車で宿に向かう途中、視界に入る風景はまさに日本のどこでも見かけるそれ。車のナンバーさえ見なければ、そこが秋田とどこが違うのか街並みに多少の違いこそあれ、インフラという意味では日本列島隅々まで良く整備されているものだとこの国の素晴らしさに感心した次第です。



参加資格が六十歳以上、さらに副将が六十五歳以上、大将が七十歳以上という五人制のチーム編成のこの大会、各都道府県の代表チームに加え、政令指定都市からも単独チームの参加が認められていて、今年度の参加チーム総数は六十六チームでした。

高齢者表彰があり、最高齢賞は本県代表の今功夫先生、さらに高齢者賞として菊池弘志先生が表彰を受けました。とくに、今先生は九十一歳という高齢で、会場内では九十一歳の先生の試合と言うことで、大変注

目を浴びました。

団体戦として秋田県チームは初戦奈良県チームに二対〇で見事勝利も二戦目の地元長崎県Cチームとの対戦は残念ながら〇対三の敗戦、一勝一敗で予選リーグ突破はなりませんでしたが。会場の観客の注目にあわせ地元TV局のカメラも追う異様な盛り上がりの中、大将戦を戦った今先生は二戦とも引き分けの大健闘、会場中の拍手喝采を受けました。

今先生と人気を二分したのが東京都代表の先鋒、渡辺正行選手！そうご存知、コント赤信号のリーダーことナベちゃんです。開会式直後の試合で登場した彼は見事勝利、試合は日頃の稽古の跡が見られる充実振りでした。

大会結果は地元長崎県チームの優勝、昨年の山口県に続いての開催地優勝です。願わくば来年も引き続き、開催地優勝！を目指すべく、すでに強化練習に取り組まれている本県ねりんピック選手候補の皆様の一層の精進を期待したいところです。

来年の大会開催に当たりましては、

本連盟の吉田、高橋両副会長が中心となつて選手の強化、運営の準備等に労をとっていただいております。長崎県五島市で行われた本年度交流大会にも視察にいらしていた、次年度開催地の市長こそ、元秋田県剣道連盟会長の長谷部誠市長であります。来年九月九・十日の二日間、長谷部元会長のお膝元由利本荘市総合体育館にて行われますねりんピック秋田剣道交流大会での秋田県選手団の大活躍を祈念しながら、本年度の視察報告といたします。

## 剣道授業実践からの報告

小林 俊夫

去る十一月十一日(金)、矢島中学校を会場に武道必修化剣道授業研究会が開催された。この公開授業は、文部科学省委託事業で全剣連が推進する武道等指導充実・資質向上支援事業の一環で、秋剣連の要請を受け、趣旨に賛同した矢島中との共催で実現した。当日は、県内剣道授業協力者と教員の二十三名が参加した。こ



れまで授業協力者が剣道授業を参観する機会が殆どなく、参加者は熱心にメモを取りながら生徒の取組を参観していた。

一コマ目は、全校生徒が剣道着・袴に着替えての黙想や木刀素振りを中心とした「全校武道」。整然と入場する姿、物音立てない木刀の置き方、背筋を伸ばした美しい黙想姿、座礼の仕方に羨望と感嘆の声があがった。全校武道のよさと学校文化・伝統を感じる一時であった。

二コマ目は、二年生の「剣道授業」。



教員二名に協力者が加わり三名で授業を担当した。参観者に、本時の山場に直結する準備運動という点で好評だったのが、音楽を生かした足運びや竹刀動作、体さばき等の基本動作であった。授業者の代表は、「剣道は対人性が大事。剣道授業では打突の仕方にプラスして、お相手が上手に打突できるように打突部位をタイミングよく空けてやることや打突後の動作を妨げない対応も剣道授業の成否を左右するポイント。このことを具現したのがBGMに合わせた元



立ち、掛かり手の足運びと空間打突」と導入理由を説明する。

次に注目したのが、元立ち・掛かり手の動作等が黒板に時系列表示された点である。学習の進め方を理解した生徒たちは、個々の興味・関心やレベルに応じた「めあて」を設定し目標達成に向けて意欲的に取り組んでいた。さらに、技の出来ばえを仲間や授業者とビデオカメラで確認するなど、教育機器を巧く活用し、自己評価に生かす工夫がされていた点である。学ぶ楽しさには三つある



といわれる。「学んでいる時に感じる楽しさ」「学びの結果として感じる楽しさ」「仲間と学ぶ楽しさ」。学びの基本は、興味・関心であり、学んでいる時に楽しいと感じることである。興味・関心が低くとも学ぶことが自分にとって重要と判断できれば、頑張り加わることには周知の通りだ。故に、様々な「授業のしかけ」が不可欠だ。また、学びにかかわる人の関係で、学ぶことが楽しいと感じるのも事実だ。教えてもらう喜び、学び合える喜びに加え、どのような

仲間と学ぶのかも重要である。学習成果の称讃や激励は学ぶ楽しさの加速材だからだ。

研究協議会は、付箋紙を活用した授業分析が行われた。指導支援の在り方を確認するとともに、よかった点と改善点について熱心な意見交換で研修を深めた。最後に、指導助言者から貴重なアドバイスがあり、効果的な演示の仕方について再確認し、有意義な一日を終えた。

### 講習会実施での要旨

大畑 博正

平成二十八年度「全剣連講師派遣による秋田県居合道講習会」を開催

今回始めて全剣連居合道講師派遣事業に応募し、居合道委員・青木栄治範士を講師にお迎えし、十二月十一日(日)秋田県剣道連盟会員を対象に、十代から八十年代、外国人を含め三十七名が参加し、由利本荘市市民交流学習センターで開催いたし

ました。

講習会は、石田純士 教士八段の進行で九時から開講式を行い、最初に秋剣連目黒会長、続いて講師の青木先生からご挨拶をいただきました。

目黒会長からは、「全剣連居合道委員の青木範士をお迎えし、盛大に講習会を開催でき大変ありがたい。秋田県の居合道人口、レベルはまだまだこれからと思いますが、このような講習会を開催できることは、大いに居合道の発展につながるものと思います。打合せで確認した講習会目的の全剣連居合の正しい普及、技術



の向上に向け達成できますよう一日ではありませんが、熱心に取り組んでほしい。」とご挨拶をいただきました。

青木講師からは、「昨日の打合せ内容を踏まえて、受講生も初段から七段まで幅広いので、全剣連居合礼法から術技一本目から十二本目まで解説し、さらに稽古・試合・審査上の留意点などの基本的なところを中心とした内容で行いたい。」と挨拶をいただきました。

午前は、全剣連居合一本目から十二本目まで、受講生全員で演武を



行い、その都度、モデルをたてて悪い例を個々に丁寧に分りやすく説明していただき、さらに稽古・試合・審査にあたっての心構えについても指導をいただきました。

午後の後半は、四段以下、五段、六く七段のグループごとに演武を行い、各段ごとの陥りやすい欠点の修正と形に心を込めて大胆に演武することが大事であることの指導をいただき十六時まで行いました。

また、受講生からの多くの質問にも丁寧に分かりやすく説明をしていただき、今後の稽古の指針を得たもの



と思います。

おわりに、青木講師からは「熱心な受講態度に敬意を表し、強く熱意を感じました。このような講習会をぜひ今後も継続をしていただきたいと思います。秋剣連会長はじめ役員のご支援に感謝いたします。」と講評をいただきました。

悪天候にもかかわらず全県各地域から多数参加していただき、講習内容も大変好評であったことから、このような事業を継続して実施していきたいと考えております。

### 六段昇段審査を終えて

佐々木 誠



五月の審査会で五

回目の挑戦で剣道六段に合格することが

出来ました。受審資格を得てから、多くの先生方に稽古をつけていただき感謝申し上げます。

このたびの審査会で合格出来た要因としては模擬審査会で講師の先生方にご指導していただいたことで自身の剣道への取り組み姿勢が変わってきたことだと思います。構え、握り、

打ちの弱さと悪い点を指摘していただき、もう一度基本を見直さなければならぬと思いました。日頃、指導している子供達には基本が大事と言いつつ、私自身が何にも出来ていなくて、意識もせずに稽古をしてきた事に気付きました。基本打ちを重点的に稽古することにし、構え、握りを確認し、意識して稽古することを心がけるようにしました。いったん身に付いた悪い癖を直すこ

とは容易ではありませんが、二回目の審査、三回目、四回目と少しずつ手応えを感じ、五回目の審査会では落ち着いて受審することが出来、合格することが出来ました。

模擬審査会では多くのことを学ぶことが出来、今後、子供達を指導していくうえでも大変勉強になりました。講師の先生方には丁寧にご指導していただき、日頃一緒に稽古で汗を流し、打込み稽古にもお付き合いくださった、雄信館真剣会の方々、皆様のおかげで剣道六段に合格することが出来たと思います。心からお礼申し上げます。

六段審査に挑むことで昇段の厳しさを改めて感じ、自身の剣道を省みることが出来ました。これから少年剣道に携わり、自身の剣道にも励んでいきたいと思えます。今後とも宜しくお願い致します。

### シリーズ道場紹介 第九回

### ■ 泉剣道スポーツ少年団 ■



● 代表者 佐藤 信明

● 主稽古場

秋田市立泉小学校、秋田市泉コミュニティセンター（冬季）、泉児童センター（冬季）

● 本団の歴史

昭和五十四年創立。八橋小学校から分離し、当時警察職員であった佐渡房勝先生と佐藤凡昭先生の二名で子供数名から始めた。その後昭和五十六年に旧秋田相互銀行の剣道部が母体の指導体制となり、平成十一年から佐藤信明先生に引き継がれている。

●稽古内容と指導の要点

礼法・所作、基本動作の習得を指した基本稽古が中心である。さらに、学年が進むに従い互角稽古や試合稽古を取り入れている。現在は、少子化、児童が取り組むスポーツの多様化、また近くに雄信館内山道場があり、団員は減少の傾向にあるものの、団員は一生懸命稽古に励んでいる。

最近では、剣道の経験がある団員の保護者や中学校・高等学校に進学したOBが稽古に参加し、活気が戻ってきている。

平成二十七年には、長年の地道な活動が評価され、全日本剣道連盟より「少年剣道教育奨励賞」を頂くことができた。

これを励みに、さらなる剣道の普及を目指して行きたい。

●指導者数

代表者である佐藤信明先生を中心に、藤原幸康先生の二名、剣道の経験がある団員保護者が補助をしている。

●団員数

七名（五年生二名、四年生二名、三年生三名）

●最近の主な試合成績

平成二十六年に全国選抜少年剣道錬成大会（水戸大会）に出場して以来、各種大会でなかなか入賞できない現状であるが、平成二十八年度は秋田市西地区大会で春・秋連続の入賞が

でき、将来が楽しみである。

●会費 月額 二,五〇〇円

■田沢湖志成館道場



●館長

田口 和美

●代表指導者

畠山 芳典

●稽古場所

仙北市立生保内武道館

仙北市田沢湖生保内字武蔵野

一一七―二六三

電話番号

〇一八七―四三―〇八八六（館長自宅）

〇八〇―一八〇八―八四九八（館長携帯）

●道場の歴史

昭和五十一年に田沢湖剣道スポーツ少年団として発足。地元生保内中学校剣道部に剣道経験者の先生が不在で有った為中学校剣道部と一緒に

活動していた。

活動としては継続していたが指導者との稽古時間が合わない事も有り活動方法を見直し、平成四年に生保内中学校剣道部卒業生を中心に組織を田沢湖志成館道場と団体名を改め、剣道道場連盟に加入し現在の活動を開始した。

道場名は剣道を志した人の思いが成就する事を願い名付けた。

●稽古日と時間

毎週 火・木・金（祝祭日は休み）

時間 十九時～二十二時

●稽古内容と指導要点

幼少年及び中学生への指導は基礎基本の習熟を中心としながら剣道の特徴である対人競技の理論理合（特に相手への思いやりと認める気持ち）を知ってもらえるよう指導している。

その中でも稽古は精一杯且つ激しくそして修業年数相応の成果が出る事を目標にし、自分で考え研究する気持ちを持たせるようにしている。

高校生以上は剣道を楽しむ同志として「師弟同業」の稽古を心がけている。

●道場の特色

普段の稽古は幼少年中心となっているが他道場からの訪問及び自主的な稽古は自由としている。

幼少年から一般まで一緒になって稽古ができ、地元で剣道の文化が継続していく為の場となっている。

機会があれば県外の道場、団体とも交流を持ち、特に茨城県の筑波大

剣友会とは定例で水戸大会に出場した際は筑波大学の剣道場で、秋は剣友会の先生に道場にご訪問頂て稽古会を十年にわたり継続しています。筑波大学の道場での稽古会では剣道範士 佐藤成明先生から子供たちがご指導を頂く機会も作る事ができました。

長く剣道を継続できる事を念頭に

全員が剣道に励んでおります。

●指導者数 五名

●門弟数

幼少年九人 中学生六人

高校生五人 一般五人

●最近の主な成績

小学生

大曲仙北剣道錬成大会

平成二十七年 優勝

平成二十八年 三位

中学生（生保内中学校女子剣道部）

平成二十四年～二十六年

東北中学校剣道大会出場

（平成二十五年 三位）

平成二十六年

全国中学校剣道大会出場（ベスト16）

●会費

会費は設けていないが小中学生の保護者会管理の活動費（保険等含む）として試合に出場する子供は月二千円、初心者には月千円としている。

二十八年度八段・七段・六段・称号合格者

剣道七段

東海林 斉(秋田市) 東京・11月23日

剣道六段

小池 一寿(秋田市) 愛知・5月15日

嘉藤 英人(秋田市) 愛知・5月15日

佐々木 誠(秋田市) 愛知・5月15日

小田嶋 契(秋田市) 北海道・8月21日

石川 維範(大曲仙北) 愛知・11月13日

佐々木祐輔(大曲仙北) 東京・11月25日

和賀 正由(湯沢雄勝) 東京・11月25日

猿田 健一(秋田市) 東京・11月25日

剣道教士

後藤 高仁(大曲仙北) 京都・5月6日

伊藤 功(由利本荘市) 東京・11月23日

高橋 彰(横手市) 東京・11月23日

山崎 良明(横手市) 東京・11月23日

剣道錬士

黒澤 長栄(湯沢雄勝) 京都・5月6日

田村 清隆(秋田市) 京都・5月6日

渡部 大臣(大館北秋) 京都・5月6日

谷本 淳(大館北秋) 京都・5月6日

丸野内 潤(秋田市) 東京・11月23日

廣瀬 昌一(横手市) 東京・11月23日

田山 恵子(大館市) 東京・11月23日

諸井 忠道(秋田市) 東京・11月23日

佐藤 邦男(秋田市) 東京・11月23日

古野 博一(秋田市) 東京・11月23日

居合道七段

桂 邦夫(北秋田市) 東京・11月9日

居合道六段

大倉 慶人(大館北秋) 三重・6月10日

杖道六段

大畑 博正(秋田市) 東京・1月13日

二十八年度各賞受賞者

◎平成二十八年度 春の叙勲

「旭日双光章」

鑑 喜裕(秋田県剣道連盟最高顧問)

(元秋田県剣道連盟会長)

◎平成二十八年度 全日本剣道連盟

「剣道有効賞」

佐藤 禎輔(横手市剣道連盟顧問)

「少年剣道教育奨励賞」

追分剣道スポーツ少年団

◎平成二十八年度 秋田県剣道連盟

「幼少年指導奨励賞」

鹿角剣道連盟：八幡平剣道スポーツ少年団

能代山本剣道連盟：向雲剣錬会

男鹿市・潟上市・南秋田郡剣道連盟：天王剣道スポーツ少年団

石井 実

石井 実

石井 実

石井 実

石井 実

石井 実

秋田市剣道連盟：泉剣道スポーツ少年団

由利本荘：にかほ剣道連盟：象潟剣道スポーツ少年団

石井 実

石井 実

石井 実



平成28年度秋田県剣道連盟「幼少年指導奨励賞」を受賞された指導者の先生方

二十七年各賞受賞者

◎平成二十七年各賞 秋田県スポーツ賞

「栄光賞」

木村 弘人(山王中学校)

◎平成二十七年各賞 秋田県剣道連盟

(功労賞・本田賞・小笠原賞・その他表彰)

\*功労賞

該当なし

\*本田賞

第45回全国中学校剣道大会

個人 第三位

選手 木村 弘人(山王中学校)

第25回全国高等学校剣道選抜大会

団体 第三位 秋田南高校

第45回魁星旗争奪全国高校勝抜剣道大会

団体 ベスト8 秋田南高校

監督 湯澤 寛

選手 齊藤 億・工藤 脩平

中嶋 雄理・志藤 康平

鈴木 貴大・近江 亮

田松幸之介

第63回全国矯正職員武道大会

団体 第三位 秋田刑務所

監督 村山 浩一

選手 藤田 和憲・土田 貴也

渡部 有真・鈴木 滋

大倉 淳平・工藤 大幸

第50回全日本少年少女武道錬成大会

団体 優秀賞 雄信館内山道場

監督 高島 慶人

選手 高島 慶太・工藤 洸

齊藤 大成・三浦 育真

佐藤龍之介・菅原 陽菜

\*小笠原賞

該当なし

\*特別賞

該当なし

# 第25回全国高等学校剣道選抜大会・第三位

平成28年3月27日(日)～28日(月)・春日井市総合体育館

# 第62回東北高等学校剣道選手権大会・団体優勝

平成28年6月18日(土)～19日(日)・二戸市総合スポーツセンター

秋田南高校剣道部 主将 鈴木貴大

私たちは、二年生の八月に三年生が引退して、最上級生になってから全国制覇を目標として練習してきました。新チームになってすぐの頃は、全体的にまとまりがなく、それぞれが自分勝手に試合をしてしまい、なかなか結果を出すことができませんでした。多くの課題を解決するために、それぞれがチーム内での各自の役割を理解すること、役割を果たすために必要な技術等について話し合いを何度も行いました。その成果が表われて、年末年始の遠征ではチーム内での負けが少なくなり、全国レベルの相手と試合をしても少しずつ勝てるようになってきました。

三月に愛知県春日井市で開催された第二十五回全国選抜高校剣道大会に秋田県代表として参加しました。予選リーグでは、全国大会の舞台であるという重圧に飲み込まれそうになりましたが、なんとか勝ち上がり決勝トーナメントに残ることができました。決勝トーナメントでは、前日より会場の雰囲気慣れてきたということもあり、落ち着いて試合を進めることができました。それぞれがチームのために戦うことを徹底した結果、秋田県勢初の第三位に入賞することができました。また、六月に開催された東北選手権剣道大会でも決勝で代表者戦を制し、秋田南高校として十六年ぶりの優勝をすることができました。

全国、東北大会レベルの試合を通して感じたことは一本の重みです。全国選抜大会では、決勝トーナメント



トの試合はすべて一本差、もしくは一勝差でした。全国レベルの相手となると、なかなか打つ機会がなく、僅かな機会を見逃さずに確実に捉えることが必要であるため、取った一本、取られた一本がとても重要になってきます。全国選抜大会での入賞は、新チームになってから課題としていたチーム内での役割について皆で考えてきた成果だと思えます。

このような結果を残せたのも、毎週木曜日の強化練習会などに参加させていただき技術力を向上できたことや、指導していただいた秋田県剣道連盟の先生方など多くの方々のおかげであり、感謝しています。これからそれぞれの進路に進むわけですが、さらに高い目標に向かい、剣道を通して人間的に成長できるように、より一層稽古に励んでいきたいと思っています。

## 広報委員会からお知らせ

剣道人口の拡大を図るために各郡市で行われている大会の結果や、取り組みの状況をホームページに掲載していきたいと考えています。

情報がありましたら、記事の内容や写真などをFAX、できれば電子データで送ってください。

広報委員会ホームページ担当 保坂 徹  
(連絡先) 秋田商業高校  
TEL 018-1823-4308  
FAX 018-1823-4310  
E-mail: nosa@cyber.ocn.ne.jp

## 編集後記

今号の編集集中、長い歳月に渡って秋田県剣道連盟の発展にご尽力くださった二人の先生方が相次いで永眠されました。

鑑喜裕最高顧問は平成二十一年から二十七年まで七年間会長職に在り、佐々木茂副会長は平成十五年から十四年間現職に在り、秋田県の剣道を支えてくださいました。お二人とも最期まで防具をつけて道場に立たれ、多くの会員が稽古をつけていただき、様々なご指導と薫陶を頂戴しました。ご功績に敬意を表しつつ、ご冥福をお祈り申し上げます。

## 編集

秋田県剣道連盟広報委員会

芳谷 正人、伊藤 隆

保坂 徹、辻 文彦

鹿子沢浩美